

# (IPCC)報告書をめぐる課題

# グリーンフォーラム21 研究会

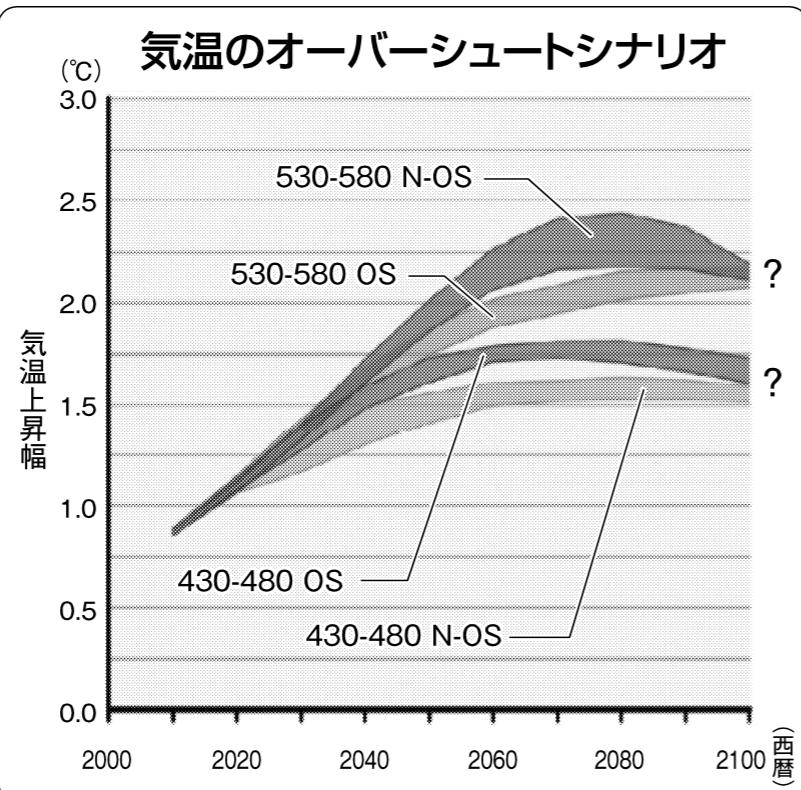
地球環境産業技術研究機構 主席研究員

# 秋元 圭吾 氏

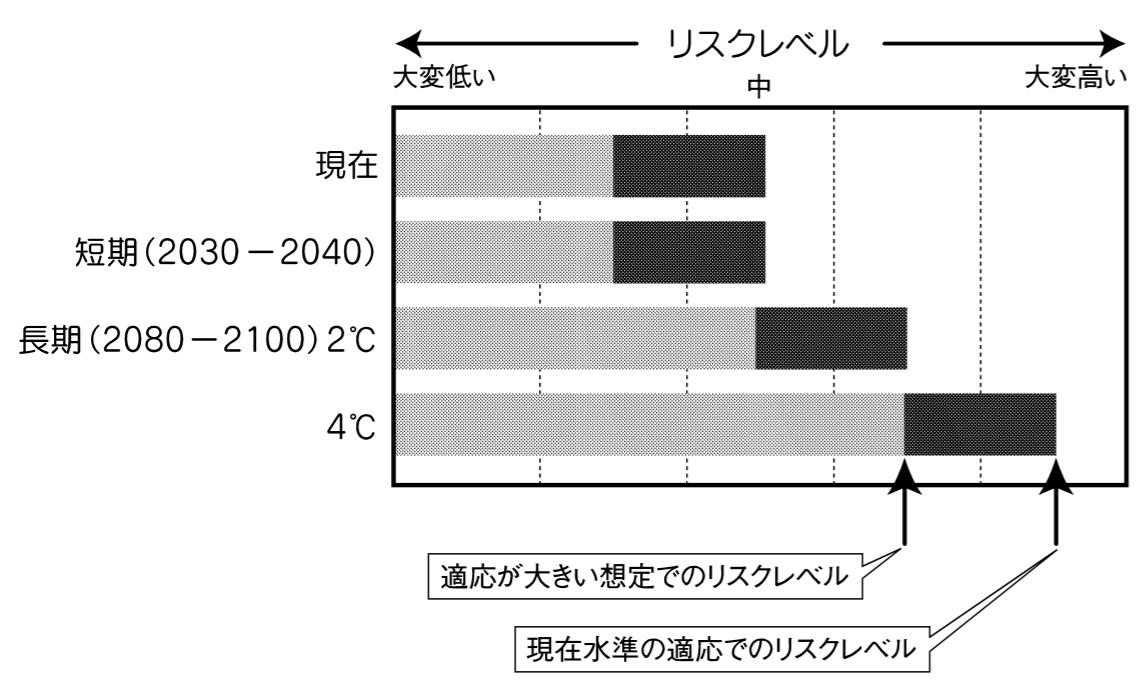


非OECD諸国で排出削減へ精  
めるので経済的ロスだ。  
なり豊富に評価できるようにな  
った。だが、CO<sub>2</sub>濃度が低レベルで安定  
化するシナリオは評価が失を半減できる。  
うになつた。だが、CO<sub>2</sub>濃度が低レベルで安定  
化するシナリオは評価が失を半減できる。  
うになつた。だが、CO<sub>2</sub>濃度が低レベルで安定  
化するシナリオは評価が失を半減できる。

# 非OECD諸国でCO<sub>2</sub>急増 排出削減へ精緻な研究必



## 地域別の主要リスクの例（現在・短期・長期 $+2^{\circ}\text{C}/+4^{\circ}\text{C}$ ）： 「アジアにおけるインフラ・生計・住居への洪水被害のリスク」



## 國立環境研究所 主任研究員

# 高橋 潔 氏

異なる。アジアの要リスクの一つはソフラ、生計、住への洪水被害の増加。日本でも洪水害はあるが、アジアデルタは海上昇で洪水の外力が強まる上に低地に口が増えており、スクがより大きい。

「適応」が重点に扱われたことも今回の報告書の特徴だ。適応への関心高まり知見も蓄積される中で、適応の連に4章が割かれた。だが適応には世界もある。想定しているすべての適策が、どの地域に有効とはいえない。局所的もしくは短的にはバランスを失こともある。緩和適応を組み合わせリスクを管理してく必要がある。

「人間 第5 章「生前に温暖化 安全保への注定者向らの章の構成しつつ観測され脆弱性リスクエンスいる。」

# 温暖化問題 リスク管 「緩和」と「適応」組み

日刊工業新聞社が主宰する「グリーンフォーラム21」（茅陽一座長＝地球環境産業技術研究機構 RITE 理事長）は6月17日、2014年度の第1回事例研究会を東京・本郷の東京大学伊藤国際学術研究センターで開いた。総合テーマは「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）報告書をめぐる課題」。今春、発表されたIPCC第5次報告書の執筆に加わった山口光恒東京大学客員教授、秋元圭吾地球環境産業技術研究機構主席研究員、国立環境研究所の高橋潔主任研究員の3氏が講演し、柔軟な目標設定、日本の温暖化交渉戦略、関心が高まる温暖化リスクなどについて幅広く議論した。

## 東京大学客員教授

# 山口 光恒 氏



## 日本はどうするべきか

### 国際社会に向けた発信（勇気ある発言）

- Strong weak agreement is better than weak strong agreement that may collapse
  - 出来ないことに固執しない。2 目標棚上げ
  - Pledge (with review) and Review提案  
日本Original
  - 各国のPledgeの衡平性比較方法の研究
  - 持続可能な成長との関係の明確化

国内（来年3月までにPledge内容提出）

- ・エネルギー計画の策定
  - ・国際的に格好をつけない（王道を行く）
  - ・技術開発と普及
  - ・縦のバランス、横のバランス

# —PCC第5次報告書 第2作業部会報告書の概要

# —PCC第5次報告書 第2作業部会報告書の概要